

<事後評価>

研究 番号	2	担当部	健康・食品安全科学部	研究期間	令和4～6年度
研究 課題名	石川県におけるパレコウイルスA感染症の実態解明に関する研究				
研究 概要	研究目標 県内の医療機関にて、PeV-A感染症疑い症例(6歳以下の小児;入院例、成人;筋痛症等)について、PeV-A等のウイルス検索を行い、PeV-A感染症の実態解明をするとともに、診断指標等の基礎資料とする。				
	実施内容 1. 小児(6歳以下):協力機関(小児科病棟を有する3医療機関)において、24時間以上の入院を要し、症状等からPeV-A感染症を疑う症例について検体(咽頭ぬぐい液、糞便等)を採取し、当センターにてPeV-A、エンテロウイルス属(ライノウイルス等)、アデノウイルス、単純ヘルペスウイルス、コロナウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトヘルペスウイルスの検索を行う。 2. 全年齢(筋痛症等):協力機関(神経内科等を標榜する3医療機関)において、筋痛症等の症状からPeV-A感染症を疑う症例の検体を採取し、当センターにてPeV-Aの検索を行う。 3. 家族等濃厚接触者:1.2のPeV-A検出症例の家族等の濃厚接触者において、症状の有無に関わらず、必要に応じて糞便を採取し、当センターにてPeV-Aの検索を行う。 4. 1～3の結果を基に、疫学的・ウイルス学的解析を行う。				
得られ た成果	PeV-A感染症の実態を把握した。 (研究1) ・2023年にPeV-Aが多数検出されたことから、周期的なPeV-A3の流行が推定された。 ・検出したPeV-A5がPeV-A3とPeV-A5の組み換えウイルスであることが示唆された。 ・PeV-A疑いの患者から検出されたPeV-A以外のウイルスではエンテロウイルス属が高い割合を占め、PeV-A陽性者とエンテロウイルス属陽性者の症状は類似していたことから、エンテロウイルス属感染との症状での鑑別は困難であることが確認できた。 (研究2) ・筋痛症を呈した成人の患者からPeV-A3が検出された。 (研究3) ・濃厚接触者の検査を実施した全ての事例からPeV-Aが検出され、家族内で感染が広がっていることが確認された。 PeV-A3流行時には、新生児や乳児への接触に加え、成人の筋痛症にも留意が必要であり、感染症発生動向調査事業でPeV-A3が複数検出される際には、ホームページ等で広く注意喚起を行っていく。				
評価 結果	A	予想以上の成果をあげた			
委員会 意見等	石川県におけるパレコウイルスA感染症の実態解明につながる成果が出ていると評価できる。成人のデータが少なかったのは、ウイルスを保有した成人が少ないということではないと思われるが、母子感染が疑われるという成果が出ていることから、今後成人の実態の調査ができると良いと思う。また、乳幼児を持つ母親にとっては、非常に重要なことなので、周知を工夫していただきたい。				
	小児の重症化症例からPeV-Aウイルスと、他のウイルスを同時に検査したことにより、PeV-Aウイルスが原因であること、PeV-Aウイルスには流行期があることなどが明らかになりました。また、PeV-Aが18才未満に感染・発症し易いこと、濃厚接触者は成人でもPeV-Aウイルスへの感染割合が高く、成人は無症状の割合が高いが、成人から新生児や乳児への感染が推定されるなど、PeV-Aウイルス感染に貴重な知見が多々得られました。この知見は、診断、治療、蔓延防止に役立つもので、是非広く知らしめて頂くようお願い致します。 さらに、今後はインフルエンザやコロナのように医療機関で訴因として明らかにできるような簡易検査法や、特効薬の開発が望まれます。 パレコウイルス感染症は小児科定点でサーベイランスが行われている新生児や乳児に敗血症や髄膜炎などの重篤な疾患を引き起こすウイルス感染症である。患者家族の感染状況を調べ、多くの家族員に感染が認められたことから、家族内感染による発症と考えられる。このことを説明する際に発表者は「濃厚接触者」という言葉を使ったが、それは患者(乳児)に濃厚接触し、その結果感染するリスクの高い者(接触者)を指す言葉であり、感染した家族から乳児が感染し、発症したことは意味しない。 また、研究成果を学会などで医療関係者に対して発信するのはよいが、行政として一般住民、特に新生児、乳児を持つ母親に対して研究結果をそのまま発信することは慎重でなければならない。加害者としての責め苦を母親に与える可能性があることも考慮する必要がある。健康福祉部ともよく協議し、有効かつ産後間もない母親に負担をかけない予防法を提言する必要がある。 パレコウイルスの石川県での流行を捉えられた点は、素晴らしい成果である。継続的なモニタリング体制の構築につながることを期待する。 今後も事例を積み重ね、状況を把握すると共に啓発にも活かしていただければと思います。 新生児、乳児のウイルス感染症の調査研究は大変重要です。両親はじめ濃厚接触者の実態調査も含め、研究成果が広く情報提供されるよう願っています。				